

CON-TECH

ひょうご

6号
Sep.1999

CON-TECHひょうご

事業レポート

都市の中心で県と市が水辺を整備
親水性と景観を高め
まちづくりに弾みをつけた
“ふるさとの川づくり”



(財)兵庫県建設技術センターの
平成10年度事業報告

Close up!
淡路事業所の業務から

CON-TECHひょうご 第6号 1999年(平成11年)9月25日発行(年3回発行) 第2巻第3号 通巻6号
発行人/財団法人兵庫県建設技術センター TEL:078-272-4200 FAX:078-272-4207
編集協力/神戸新聞総合出版センター

建設技術知識

6

「河川工法の先祖返り!?!」

「地球に優しい」「エコロジー」……健康ブームと並んで環境ブームともいえるこのところの風潮ですが、土木工事ではどうでしょうか?今回は、河川の工法にスポットを当てての事例を紹介していきます。

土木工事はこれまで開発的な性格から、自然・生態系とのつきあいはあまり得意だったとはいえません。日本は水害に対しては極めて脆弱な国で、これまで梅雨期、台風シーズンには甚大な被害を受けてきました。その課題に対する住民の緊急で、かつ強い要望に応えるために、河川工事では、強く、安価で、入手しやすいコンクリート製品がこれまで数多く用いられ、水害に対する効果を上げてきました。

ただ、コンクリートで直線的に整備されてきた河川は、水害を減らしてくれたものの、結果的に、元々そこをすみかとした動植物の棲息・生育環境を劣悪なものへと変えていきました。

21世紀を目前に、土木工事においても、これまでの視点に加え、人間の存在の基盤となっている生態系の長期的安定性、生物資源の持続的利用、人と自然のふれあいな



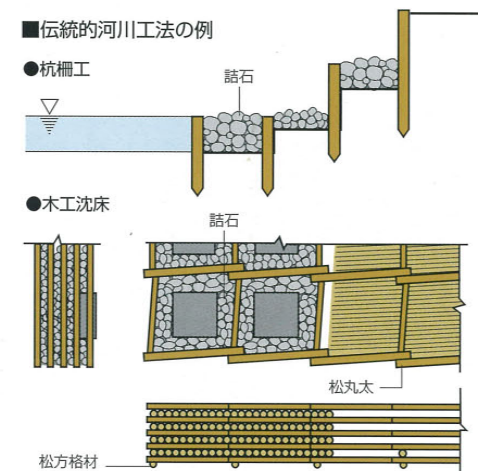
(一)千鳥川(社町)

どの視点での「コンクリートのない川づくり」、「コンクリートの見えない川づくり」をしていかなければなりません。そんな中、クローズアップされているのが、いわゆるむかしの河川工法(伝統的河川工法)です。伝統的河川工法は、コンクリートに比べ強度、耐久性は多少劣りますが、施工場所へのなじみ、地盤への追従性などが高く、しかも生態系を大きく損ねることはない点が評価されており、流速が低く、転石が少ない場所では、有効な工法といえます。

伝統的工法で使用する材料の主役は、石材と木材です。石材については、コンクリート製品に代わり使用されることが多く、木材については、近畿の国、府県が国産木材(間伐材等)の積極的利用を推進しており、公共工事で間伐材などを利用することは、森林の適切な管理を助けることにつながり、ひいては、治水・砂防上良好な影響を与えます。

本来、川はそれぞれがとて個性的で、その個性を活かした川づくりをするために、時には先人の知恵を拝借しながら、川づくりを考えていかなければなりません。

*間伐材……人工林の木材を間引いたもので、健全な森づくりのために必要。



CTC 兵庫県建設技術センター
Hyogo Construction Technology Center

〒651-0085 神戸市中央区八幡通3-2-5 (I・N東洋ビル4F)
TEL:078-272-4200 FAX:078-272-4207

阪神事業所 〒662-0857 西宮市中前田町1-25
TEL:0798-34-2275 FAX:0798-34-2285
播磨事業所 〒670-0962 姫路市南駅前町124
TEL:0792-81-3377 FAX:0792-81-3388
但馬・丹波事業所 〒669-5201 朝来郡和田山町和田山字村下9-1
TEL:0796-70-2810 FAX:0796-70-2969
淡路事業所 〒656-2132 津名郡津名町志筑新島5-1
TEL:0799-62-3690 FAX:0799-62-3843

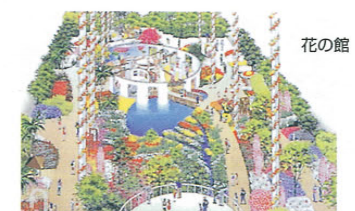
大橋渡れば、花の島。

淡路花博
ジャパンフローラ2000

会期 2000年3月18日(土)~9月17日(日)184日間
9:30~18:00 夏期[7月1日(土)~9月3日(日)]は、9:30~21:30

会場 兵庫県淡路島(淡路町・東浦町)
主会場は、国営明石海峡公園(淡路地区)、淡路夢舞台など約96%

テーマ 人と自然のコミュニケーション



花の館

国際園芸・造園博「ジャパンフローラ2000日本委員会」
財団法人夢の架け橋記念事業協会 078(393)2960
ホームページ <http://web.pref.hyogo.jp/jpnflora/>
E-mail jpnflora@pc.hyogo-ic.ne.jp

まち
都市の中心で県と市が水辺を整備

親水性と景観を高め まちづくりに弾みをつけた “ふるさとの川づくり”

西脇市（兵庫県社土木事務所管内）



川は人々の生活に恵みを与え、一方で自然の恐ろしさを私たちに教えながら、多彩な地域文化を育ててきました。しかし、治水施設の整備や生活習慣の変化とともに、水辺に近づく機会が少なくなり、身近な自然として存在した記憶が薄れつつあります。このような中、再び水辺空間への関心が全国で高まっています。

西脇市の中心部を流れる杉原川でも、県と市が一体となった河川整備が行われ、人と川とのふれあいの場が蘇りました。市民は、再び“ふるさとの川”を散策や余暇に、そしてまちづくりに活用しています。

県が杉原川の整備に合わせてリニューアルした蓬莱橋

人と川のふれあいの場を整備、水辺の復活を「川びらき」で祝う

杉原川は、播磨と丹波を分ける播州峠を源に、加美町から中町を下り、西脇市内で県下最大の川、加古川に合流する一級河川です。

ここ西脇市は、兵庫県のほぼ中央に位置し、中国山地のなだらかな山並みが間近に迫り、南に播州平野が広がる北播磨内陸地域の中核都市です。

東経135度と北緯35度の経緯度線が交わる地点があることから「日本のへそ」として知られています。

また、西脇市は、鮮やかな播州織の産地としても全国に知られています。この播州織は、先に色を染めた糸で柄を織る「先染め」と呼ばれる織物で、杉原川が発する適度な湿気と豊富な水量がこの生産に欠かせないのです。

川は、このように恵みを与えてくれる一方で、時には氾濫して恐ろしい災害を引き起こします。今回訪れた杉原川も、昭和38年の集中豪雨による浸水被害など過去に幾度かの災害にみまわれ、嵩上げを中心とした河川改修が行われてきました。

ただ、これまで治水機能の充実に重点を置いた河川断面で整備が行われてきたため、コンクリート製の急勾配の護岸やパレットによって人と川とが隔てられ、川が存在が遠いものになっていました。住宅や商業施設が密集する都心部では共通する悩みでしょう。

建設技術センターへの期待

平成八年四月の設立以来、貴センターにおかれましては、建設事業に関する各種の設計・積算業務等の受託をはじめ、充実した研修会・技術講習会の開催や調査研究などを通じて、県内市町及び本県の建設技術の向上と公共事業の効率的な推進に大きな役割を果たしていただきましたことに、心から感謝を申し上げます。

さて、二十一世紀を目前に控え、公共事業を取り巻く環境も大きく変化しようとしています。これからは、急速に進む少子高齢化、高度情報化など、社会情勢の変化を見据えて真に必要な社会資本の整備を図っていかねばなりません。

このためには、従来までの社会資本の量的充足に重点を置いた建設主体の施策から、社会資本の質を重視し、既存ストックの有効活用や良好な環境の保全・創造等も視野に入れた総合的な施策への転換が求められています。

兵庫県では、県土を豊かにする社会資本を「つくり、そ

だて、まもっていく」ことを基本に、夢のある個性と魅力あふれる地域づくりに努め、人と自然、人と人、人と社会が豊かに調和し共生する「自由で調和ある自律社会」の実現をめざしています。

また、事業の展開にあたっては、アカウンタビリティ（説明責任）の向上やディスクロージャー（情報開示）の推進に努めながら、県民の皆様方に社会資本整備の必要性、重要性を正しく理解していただく努力をすることに加え、コスト縮減対策や事業評価制度の充実強化に積極的に取り組んでいかなければなりません。

こうした新しい時代の要請に応えるためには、優れた技術力と豊富なノウハウを持つ建設技術センターの役割が、より一層重要になってまいります。今後とも、各市町をはじめ、本県土木行政の推進にご協力をお願いするとともに、業務内容等の「層」の充実強化を図られ、ますます発展されますことを期待しています。



兵庫県土木部長
前田 増夫

CON-TECH
ひょうご

（財）兵庫県建設技術センターの英語表記である「HYOGO CONSTRUCTION TECHNOLOGY CENTER」の頭文字を組み合わせたとともに、皆様方相互（CON）の建設技術（TECH）の交流の場づくりを担いたいとの思いから名付けました。

〈表紙写真〉

事業レポートより、平成10年8月、杉原川ふるさとの川整備事業の概成を祝う川びらきで、地元西脇市の子どもたちがニシキゴイの稚魚を放流した。

Topics

一般県道下内膳物部線「下加茂橋」が完成

この橋は、昭和3年に二級河川洲本川に架設された橋で、老朽化が著しく、また幅員が狭小でした。平成7年度より永久橋架換事業として進められていた工事が完成し、新しい「下加茂橋」が去る5月12日に供用を開始しました。

形式は、ポストテンション方式の場所打ちPC2径間連続ラーメン中空床版橋（L=48.5m、W=6.0（13.0）m）、逆T式の下部工は直接基礎および場所打ち杭基礎（φ1000㎜）となっています。

当センターは、平成8年度より積算および工事監理業務を兵庫県洲本土木事務所より受託してきました。

開通式では、親子3世代夫婦を先頭に渡り初めや餅まきなどが行われ、多くの人々に完成を喜んでいただきました。



災害対策棟整備に係る地下連絡通路工事に着工

兵庫県では大震災を教訓とし、いかなる災害にも堅牢で本部機能が発揮できる災害対策棟を山手幹線をはさんだ県庁北側の県有地に建設中ですが、去る6月20日に、この災害対策棟と本庁舎1号館を最短で直結する地下連絡通路工事の安全祈願祭が行われ、本格的な工事に着手しました。

この工事は、山手幹線の道路下約4mの位置に、内空幅3m高さ3mのボックスカルバートを約53m開削工法で設置するものです。



当センターは、平成9年度より予備設計の段階から実施設計、積算、工事監理までの全業務について兵庫県知事公室より受託し、平成12年度の完成を目指しています。

一般廃棄物最終処分場建設工事に着手

去る7月21日、豊岡市岩井地区で一般廃棄物最終処分場の建設工事が着工の運びとなり、関係者約70名が出席するなかで安全祈願祭が挙行されました。

この一般廃棄物最終処分場は、豊岡市と近隣5町で構成される北但行政事務組合が整備するもので、埋立地造成工事（面積3.7ha、埋立容量135,000㎥、洪水調整池容量2,930㎥）と、浸出水処理施設工事（管理棟、調整槽3,900㎥）の2工区に分けて施工されます。

当センターは、設計および積算業務を受託するとともに、工事着手に向け関係する諸法令に基づく協議等にも参画しました。引き続き工事監理業務を受託しており、平成12年10月の供用を目指し、鋭意取り組んでいます。



「日本人はだれも自分の川を一本持っているといわれます。水辺で楽しく遊んだ子どものころの体験が、大人になって遠く離れたところに住むことになっても、ふる

会になりました。



中心商業地の賑わいを期待し始まった川原でのフリーマーケット

ればと、河川敷を利用したフリーマーケットが開かれています。また、平成8年のお盆から「精霊流し」が復活し、参加した多くの市民が、川のある暮らしを見つめなおす機会になりました。



内橋直昭 西脇市長

さとの町を思い起こすきっかけとなることが多いそうです。そのような大切な財産である川を、望ましい姿で次の世代に引き継がなければなりません。杉原川にもう一度目を向け、ふるさとの復活と地域コミュニティづくりの場として活用してもらいたいものです」と、内橋直昭西脇市長は市民への期待を語ります。

四季を通じて、川は人々の暮らしとともにあります。人と人が出会う場所、まちづくりやコミュニティづくりの拠点として、川は絶好の場ではないでしょうか。



地域の人々が美しく清潔な水辺空間づくりを進める

川が美しくなると不思議なもので、ポイ捨てもほとんどなくなりました。パラペット上に設置されたプランターには、老人会の人たちが植えた色とりどりの花が賑わいを添えています。河川行政の新たな試みによって蘇った杉原川。ふるさとの川である杉原川は、日本への「さ」である西脇市のさらには「へそ」として、今後も人々が集い寄る場所となっていくことでしょう。



地域の人たちが育てたプランターの花でパラペット護岸が飾られている

治水とともに親水性や景観も向上、橋や公園も一体的に整備

この事業では、「流れによみがえる・うるおいのまち」をテーマに、治水対策を核にしながらも、人と川のふれあいに配慮し、うるおいの場となる空間の創出に工夫が凝らされています。

治水とともに親水性や景観も向上、橋や公園も一体的に整備

昨年の8月、県の事業が概ね完成したことを祝って、西脇市主催による「川びらき」の式典が行われ、地元の子どもたちが「シキゴイの稚魚千匹を放流するなど、多くの市民が水に親しみふれることができる川の復活を喜びました。

今では、魚とりや水遊びをする子どもたちの姿が毎日のように見られ、緑の芝や草花に覆われた河川敷では、地域の人たちが日課の散歩やジョギングを楽しんでいます。

このような中、治水対策の一環として、自然環境の保全・創出や周辺の景観との調和を図りつつ、地域整備と一体となった河川改修を行い、良好な水辺空間の形成を図ることを目的に、「ふるさとの川モデル事業」が昭和62年、建設省で創設されました。現在は、他のモデル事業を統合し「ふるさとの川整備事業」となっています。杉原川は事業創設の初年度に全国38河川とともにモデル河川の指定を受けました。県は、加古川との合流点から新豊川橋まで、市の中心部を流れる延長1700mの区間について整備計画を策定し、平成元年度にその認定を受け事業に着手しました。



河床の岩盤掘削で生じた岩塊を護岸に利用して自然景観との調和を図る

しています。

川沿いの道路から下りられる階段を新たに6箇所設置し、これらを高水敷に整備された散策道が結んでいます。低水護岸にも水際まで近づける階段を随所に設けています。帯工が飛び石型につくられていることから、川向かいへの往来が容易になっています。

川面には悠々と羽を休めるアオサギやシロサギ。水面すれすれを飛び交うセグロセキレイ。手近にバードウォッチングが楽しめます。

殺風景だった既設のコンクリート護岸には自然石が波状に張り付けられています。周囲の山並みをイメージしているのでしょうか、リズミカルな楽しさを感じさせます。また、低水護岸の一部には、河床の岩盤を撤去した岩塊が利用されており、周囲の景観になじませています。

また、県は、事業区間内に架かる主要地方道西脇停車場線の蓬萊橋を、その耐震補強工事に合わせて美装化しました。河川の景観と調和するよう高欄が煉瓦タイル張りで仕上げられ、昭和4年に架

まず、治水面では高水敷となる幅約10mの部分を残して中央の河床を掘削し、流下能力を393㎥/秒から600㎥/秒に拡大

けられたこの蓬萊橋が、市のメインストリートにふさわしく蘇りました。レトロなガス灯風の照明灯も新たに設けられました。これは、西脇市の地場産業である播州織が最も隆盛した大正時代を思い起こしてデザインされたもので、大正ロマンをコンセプトとしています。また、橋の上には半円形のバルコニーが4箇所設けられ、川を眺めることのできるスポットになっています。

「アメニティ豊かな空間ができて、多くの市民が憩い親しむ姿を見ると嬉しくなります。土木屋でよかったと思う瞬間じゃないですか。しかし一方で、私たちは防災を忘れてはいけません。本来、川の整備は治水対策が基本ですから、それを阻害する施設を作るときには、技術的に十分考えて、目立たなくする工夫をすることが重要ですね」と、高畑孝充兵庫県土木事務所長は語ります。

一方、西脇市は、平成6年度から地方特定河川等環境整備事業により杉原川に隣接した公園や景観の整備を行っています。地区の防災拠点ともなる萩ヶ瀬親水公園、公衆トイレ・あすまや等を備えた豊川水辺公園が既に完成しました。また、市道に架かる由縁橋と豊川歩道



高畑孝充 兵庫県土木事務所長

橋の美装化を行い、川沿いには蓬萊橋と同じデザインの新街灯を設置しています。さらに、西脇大橋のほとりの大橋親水公園やプロムナードの整備計画があり、地域のシンボリックな施設整備が予定されています。

川を舞台に新しいふるさとの行事が生まれ、伝統の行事も復活

市街地に身近なオープンスペースを提供した杉原川では、新しいふるさとの行事が次々と生まれています。



豊川水辺公園前の川原で行われた「わんぱく相撲」

西脇青年会議所では、恒例の「わんぱく相撲」を今年は河川敷に会場を移し、5月23日に「加杉野場所」として開催しました。杉原川でいろいろな遊びができることを子どもたちに実感させたいとの願いが込められており、当日は児童や園児ら約140人が参加し、試合後はちゃんこ鍋がふるまわれました。今年8月から毎月第一日曜日に、中心商店街に賑わいと呼び戻すきっかけにな



公衆トイレやあすまやが設けられ市民の憩いの場となった豊川水辺公園

研修会参加者レポート



県土木職採用職員研修に参加して

兵庫県土木事務所工務第1課
小倉 正大

新任職員として5カ月が経過し、徐々に職場の雰囲気には慣れつつも、仕事については未だ右も左も分からない状態であり、土木職員の一人として早く戦力になりたい一心でこの研修に臨みました。

研修では、公共事業の一連の項目について勉強でき、非常に有意義なものとなりました。内容が盛りだくさんで、即仕事に活かせるほど理解はできなかったが、不透明だった自分自身の歩むべき道が少し見えた気がしました。その一方で、技術力は経験を積むことにより培われることが、諸先輩方の話を聞いてよく分かりました。

今後このような研修会に積極的に参加し、質の高い魅力ある兵庫県の創造の一端を担えるように自己啓発に努めたいと思います。



市町建設事業担当職員 新任研修に参加して

出石町建設課
土野 貴志

新任職員研修に参加する前は、仕事の内容について何も分からず、ただ言われたことをそのまま実行するだけでした。今回の研修は、公共事業の仕組みから積算の演習までと、幅広い分野にわたる内容のものでした。私自身、町職員となり3カ月、まだ経験が浅く、実践的なことが全く分からない自分にとって、基本的な部分からの説明が多いこの研修は、分かりやすく感じました。しかし、2日間という限られた時間の中で、教えていただいたことをすべてマスターすることは難しく、また、内容も広いので、より深いところまで話を聞くことができません。時間の短さが残念に思われました。今後も機会があれば研修会などに参加し、一日も早く技術者としての知識や経験を身につけ、一人前の職員としてがんばれるよう努力したいと思います。



県土木職中堅職員（主任）研修に参加して

兵庫県姫路土木事務所道路補修課
大村 泰三

個人的には主任になったからといって、仕事の内容が大きく変わる訳でなく、もう県の職員となって10数年経つのかとの感慨の方が強かった。しかし、これは線上の一点ではなくステップであると講義を受けました。最近、生活に情性を感じる日があります。また、チャレンジという言葉も使わなくなりました。“中堅”とは消極的なことなのだろうか!?今回の研修テーマは「自己検査」。内容も、講義より討論が中心で、題材は研修生がこれまで経験してきた工事等の事例である。10数年の間、各人例外なくいろいろと難しいことに直面しているものだなと感じ、自己検査は赤信号。ステップに足をかけるところか、2・3段階み外した感がありました。研修後は「365歩のマーチ」が頭の中で響く今日この頃です。

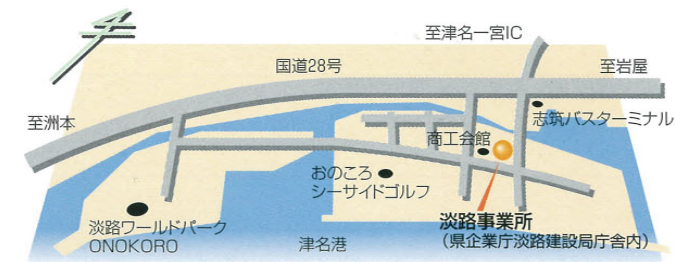


淡路事業所の業務から

—地域の多様なニーズにお応えします—

淡路事業所は、いざなぎ・いざなみの国生み神話で知られる淡路島にあり、津名町の県企業庁淡路建設局津名臨海建設部の事務所内にあります。近くには、「淡路ワールドパークONOKORO」があり、休日のこのあたりは、人と車であふれかえっています。

ここ淡路島は、一年中美しい花に彩られ、周囲を取り巻く海と背後の山々には自然が息づき、夏の海水浴をはじめ陽光あふれるリゾートアイランドとして四季を通じて人気があります。また、明石海峡大橋の開通により交通の便がよくなったことで拍車がかかり、観光のメッカとなっています。機会があればぜひ一度お立ち寄りください。



さて、当事業所は、男性5名と女性1名の総勢6名で構成され、主に兵庫県洲本土木事務所管内を対象に、設計積算および工事監理の受託業務を実施しています。

これまで土木事業を中心に、道路・橋梁・河川・砂防・港湾・海岸・水道等に係る施設の整備に携わってきました。

最近、国際園芸・造園博「ジャパンフローラ2000」の海の玄関口となる「淡路交流の翼港」の設計積算や工事監理業務を洲本土木事務所より受託し、2000年3月のオープンを控え、早期完成を目標に努力しています。主な工種は、埋立地護岸・防波堤・浮桟橋・埋立地内の道路・本島との連絡橋（夢橋）等であり、港湾工事ははじめ多岐にわたっています。

また、当センターの発足当時（平成8年度）から積算や工事監理で携わっている事業に、砂防河川長田川の砂防事業があります。この事業では、「自然と地域になじんだ水と緑の溪流づくり」をテーマに多自然型護岸等の整備を行っており、平成12年度に完成する予定です。完成後は、多様な生物の生息・生育の場が確保された、人と自然がふれあうことのできる施設になると思われ、私たちが地域の環境づくりに貢献できることをうれしく思っています。



多自然型護岸等の整備がすすむ砂防河川長田川

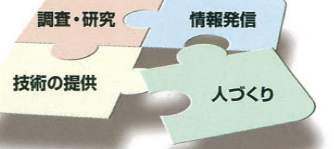
今後とも地域に密着し、多様なニーズに応えていけるよう努めてまいりますので、当センターの活用をお願いします。

(財)兵庫県建設技術センターの 平成10年度事業報告

兵庫県建設技術センターでは、多様化する新時代に対応し、兵庫県および県内の市町が協調して建設行政を一層円滑かつ適切に推進するため、建設技術の向上と公共事業の効率的な執行を支援する機関として、事業の拡充に努めています。

このたび、第8回理事会において平成10年度事業報告書が承認されましたので、一部紹介済みの内容もありますが、改めて報告いたします。

研修会への参加や建設技術に関する相談など、
気軽に当センターをご利用ください。



研修会の開催

階層別技術研修

建設技術職員の資質の向上と事務処理能力の向上のため、県・市町職員を対象とした研修を実施しました。平成10年度では新たに採用2年目の職員を対象に実務演習を中心とした「フォロアップ研修」、地方機関の課長補佐を対象に、職場のリーダーとしての能力向上を図る「5級職員研修」を兵庫県土木部と共催しました。

研修名	日数	受講者数
県土木職採用職員研修	3日	28名
県土木職フォロアップ研修	2日	36名
県土木職中堅職員（主任）研修	2日	37名
県土木職5級職員研修	2日	38名
市町建設事業担当職員新任研修	2日	76名
市町建設事業担当職員中堅研修	1日	64名

専門分野別技術研修

分野別の専門知識や技術力の修得をめざし、県・市町職員を対象とした技術研修を開始しました。その第弾として平成10年度では、プレストレストコンクリート橋の施工（桁製作・架設）および積算をマスターできる技術講習会を実施しました。

研修名	日数	受講者数
PC橋施工と積算に関する技術講習会	1日	65名
センター・テクニカルセミナー	8日	60名

現場研修

建設技術職員の技術力と資質の向上を図るため、県・市町職員を対象とした現場研修を実施し、平成10年度では新たに「県外現場研修」を実施しました。



生活者の視点でさまざまな工夫が凝らされた高知桂浜道路

県外現場研修の内容

「徳島自動車道（日本道路公団）」
トラス式両側張出架設工法を採用した「池田湖橋」及び傾斜地に軽量盛土工法で施工された林道を研修
「高知桂浜道路（高知県）」
計画段階から完成までを行政と女性8名の検討会委員が一体となって取り組んだ生活者中心のあたたかな道づくり及び「ポット苗」による緑化工法を研修
※県内現場研修は、兵庫県建設技術センターと共催です。

研修名	日数	参加者数
県外現場研修	2日	83名
県内現場研修	1日	129名

土木行政講演会の開催

土木の日（11月18日）にちなんで、県・市町の管理・監督職を対象とした講演会を兵庫県土木部との共催で実施し、県から84名、市町から74名が参加しました。



演題
「21世紀を考えた今後の県政」
兵庫県知事公室長（当時） 宮崎秀紀氏
「公共事業を巡る最近の話題」
建設省近畿地方建設局企画調査官 横山晴生氏

図書の発行および販売

「土木請負工事必携」2分冊（平成11年改訂版）を、兵庫県土木部の監修を得て発行しました。これは、工事に関する契約内容の更なる明確化を図るために改訂された兵庫県土木工事共通仕様書や、公共工事のコスト削減、品質の確保を目的として全面改訂された土木工事施工管理基準を収録したもので、現在も販売中です。



工種	積算	工事監理	設計・その他
道路	20	3	1
トンネル	9	5	1
橋梁	56	12	2
河川	40	11	4
砂防	10	5	2
港湾	9	—	—
その他	13	1	7
計	157	37	17



平成8年度より積算、現場監理業務を受託してきた（主）相生山崎線角亀トンネル

設計積算、工事監理業務の受託

公共事業の効率的な推進を図るため、県および市町等の設計、積算、工事監理等の業務を受託しました。

氏名	職名	専門
足立紀尚	京都大学教授	トンネル工学
藤田和夫	断層地質学センター理事長 大阪府立大学名誉教授	地質学
村橋正武	立命館大学教授	都市計画

技術顧問制度の創設

建設技術のシンクタンク化をめざして、各界の識者をセンターの技術顧問として委嘱する「技術顧問制度」を創設しました。

大規模災害発生時において、迅速かつ的確な情報収集や災害対策活動への支援をボランティアとして行っていた多く、兵庫県防災エキスパートの発足式を平成10年5月25日に開催し、その活動が開始されました。
センターにおいては、活動マニュアル等の整備品を提供するとともに研修会を開催してその活動を支援しています。
平成10年の台風7号および10号の際には、河川や道路の巡回調査などを行っていただきました。
●平成10年度登録者数／260名

防災エキスパートの登録と支援